

AET の存在が中学生に及ぼす効果

— AET の導入が中学生の, 外国人や英語に対する態度, 学級雰囲気 に及ぼす効果 —

鈴木康平*・田口広明**・田口恵子***

Effects of AETs on Junior High School Students

— AETs' Effects on Attitude of Junior High School Students
toward Foreign People and Learning English and Class Atmosphere —

Kouhei SUZUKI*, Hiroaki TAGUCHI** and Keiko TAGUCHI***

(Received May 23, 1994)

In this study, we examined how Assistant English Teachers (AET) affect attitude of junior high school students toward foreign people and learning English and their recognition of class atmosphere.

The subjects were 145 first year students who are team taught twice a week, 141 students who are team taught once a week and 152 students who have never been team taught. They were asked to answer questionnaires about attitude toward foreign people, foreign culture, learning English and the atmosphere of English class.

As a result, it was suggested that AETs made first year students confused as far as understanding foreign people is concerned. It was also indicated that AETs made students' attitude towards English positive, and that they made the atmosphere of the English class cheerful and friendly.

Key words : effects of AET, attitude, foreign people, English, class atmosphere

問 題

昭和60年にJET(The Japan Exchange and Teaching)プログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)が, 地方公共団体, 文部, 自治, 外務の三省の共同事業として発足し, ここ数年来各県で中学・高校にAET(Assistant English Teacher)の導入がなされるようになってきた。AETは, 生徒の「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力を高めるために, 日本人教師とTeam Teachingを行っている。この場合のTeam Teachingとは, 「生徒・日本人教師・外国人講師の三者が共同して作り出す言語活動を主体とした英語の授業」(Brumly and Wada, 1990)と定義されている。熊本県でも学校により, One Shot Visit(年1回~3回の学校訪問), Regular Visit(週1回, 2週間に1回の定期的な訪問)そしてbase school(1つの学校に席を置き, 定期的に授業を行う)といったTeam Teachingの形態があり, AETの配属のされ方は必ずしも一様ではない。One shot visitの場合, 英語に対する意欲づけが主なねらいであり, 訪問中の授業は平常の日本人教師のみの授業とは独立した形である。Regular VisitやBase schoolでは, 定期的に外国人

1) *心理学科 **大矢野町立登立小学校 ***大矢野町立大矢野中学校

2) 本研究は, 日本グループ・ダイナミックス学会第41回大会(1993熊本大学)において発表されたもののまとめである。

教師と日本人教師との共同授業 (Team Teaching) を行い、平常の授業の中に位置づけられている。

外国語の習得にネイティブ・スピーカーと接することがよい効果をもたらすことはよく言われているところであり、言語の持つ性質からそれは当然のこととして受け止められてもいる。この点について、萬戸 (1988) は、外国人教師を英語の授業に参加させた場合の生徒への効果として、「音声の指導、外国人に対する近寄りがたさの克服、国際的視野、異文化の存在の認識、自分の英語が通じたという経験・外国人を相手に何かをやり遂げたという経験、英語への興味づけ」を挙げている。しかし、公教育の場において、特に、英語に初めて接する中学生の英語の授業において、外国人教師に接することが、中学生の外国人に対する態度や英語に対する学習態度、あるいは学級雰囲気にとどのような影響を与えているかについての検討は必ずしも十分になされているとは言い難い。和田 (1992) は、AET との Team Teaching の現状を概括して、TT は日本の中学・高等学校では、日常的なものと受けとめられるようになったが、実質的な内容の研究がこれから本格的に始められるべき時期にきていると述べている。

本研究においては、Team Teaching がようやく緒につき始めたこの機会を逃すことなく、中学生が AET と接することを通して具体的にどんな影響を受けているかについて探索的な検討の試みを行うこととする。

われわれは授業経験者の直観的な印象を基に以下の予想を立てた。

- 1 AET の存在は中学生の外国人理解に貢献する。
- 2 AET の存在は英語の学習に対する態度を好意的なものとする。
- 3 AET の存在は英語の授業の雰囲気を明るくくややかなものとする。

方 法

対象：週 2 回 AET と日本人教師の Team Teaching の授業を受けている中学 1 年生 145 名、週に 1 回を受けている中学 1 年生 141 名、AET との Team Teaching の経験のない中学 1 年生 152 名、合計 438 名 (男子 234 名 女子 204 名)

実施方法：質問紙調査法 学級毎の集合一斉調査。

期日：平成 5 年 6 月—7 月

内容：質問 I 外国文化、外国人に対する態度についての意見尺度(1.外国の人ともっと交流したい 2.外国の文化や習慣について学ぶことは楽しい 3.外国人が近づいてくると逃げ出したくなる 4.世界のできごとに関心がある 5.日本人なので外国について学ぶ必要はない 6.外国の人は何となくこわい 7.日本人とか外国人とかあまり気にしない 8.外国人が嫌いである 9.いつか外国に行きたい 10.外国の人の気持ちや行動は理解できない)と、英語学習に対する態度についての意見尺度(11.英語をもっと話せるようになりたい 12.英語が書けなくてもいい 13.英語を聞いてもっとわかるようになりたい 14.英語を読んで理解できなくてもよい 15.英語の勉強が好きである 16.英語の勉強はつまらない 17.英語の勉強はむずかしい 18.英語の授業は楽しい 19.英語の勉強をがんばっている 20.英語を勉強することは大切である 21.自分の英語が通じるとうれしい)の 21 項目 (5 段階評定)。

質問 II AET のいる英語授業の雰囲気 (AET のいる英語授業の経験のない生徒はふだんの英語

授業雰囲気) についての 22 対の項目 (本文末の質問紙調査票を参照)。

結 果

1. 外国人に対する態度と英語学習に対する態度

AET 授業経験頻度, 性ごとに平均, 標準偏差を算出し, それに基づく 2 要因分散分析を行った。その結果を表 1 に示した。さらに, AET 経験頻度の主効果が有意であったものについて質問項目ごとに図 1 に示した (紙数の都合で全ての平均, 標準偏差の表示のかわりに図 1 でこれに当てる)。

「日本人とか外国人とかあまり気にしない」(調査票の I の質問事項の項目 7) についてみると, AET との授業経験が皆無の生徒群 (図の中に “TT なし” と記す。以下本文中も同様) が, 週に 2 回 AET との授業を経験している生徒群 (図には週 2TT と記す。) や, AET との授業経験を週 1 回だけの生徒群 (週 1TT) よりも日本人と外国人の違いを強く意識していないことが見いだされた。しかもその傾向は, TT なし群がもっとも気にせず, ついで週 1TT 群がそれに比べやや気にする程度が増し ($p < .05$), 週 2TT 群はさらに気にする程度が高くなっている (TT なし群との間に 1% の有意水準で差がある)。(図 1-1)。

「外国人の気持ちや行動が理解できない」(項目 10) については, 授業経験もっとも豊富な週 2TT 群が, 授業経験皆無の TT なし群よりも有意に強くそのように思っており ($p < .05$), 授業経験中程度の 1TT 群はちょうどその中間の意識であった (図 1-2)。

「英語の勉強が好きである」(項目 15) については, 週 2TT 群と有意な差はないが週 1TT 群がもっとも高く, 両群ともに TT なし群より有意に高いことが見いだされた (週 1TT 群と TT なし群とは 1% の有意水準, 週 2TT と TT なし群とは 5% の有意水準で差がある)。(図 1-3)

「英語の勉強はつまらない」(項目 16) に関しては, TT なし群が週 1TT 群や週 2TT 群よりも有意につまらないと思っている結果がえられた。こでも週 1TT 群が週 2TT 群と有意な差はないが, つまらないとは思わない傾向が最も強く出ていた (図 1-4)。

「英語の授業は楽しい」(項目 18) についてみると, 週 1TT 群と週 2TT 群が, TT なし群を有意に強く引き離して「楽しい」と答えている (いずれの群も TT なし群との間に 1% の有意水準で

表 1 各意見項目の評定の平均値に基づく 2 要因分散分析の結果

	項目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	
変動源	<i>d f</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	
群	A	2	1.459	1.308	1.260	2.204	0.376	1.001	6.700**	1.429	0.578	3.521*	0.076
性	B	1	20.557**	6.640*	0.159	0.250	8.706**	0.229	0.763	2.596	1.483	0.000	11.963**
A × B	2	5.682**	5.907**	0.142	1.706	0.546	1.248	0.185	3.418*	0.174	1.523	1.214	
誤差	432												

	項目	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	
変動源	<i>d f</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	<i>F</i>	
群	A	2	0.052	1.232	0.426	5.378**	7.994**	1.532	8.914**	3.857*	0.228	3.209*
性	B	1	1.538	6.498*	1.387	11.656**	0.256	7.747**	9.180**	1.097	6.715**	13.535**
A × B	2	0.122	0.483	0.754	4.736**	2.110	0.201	14.576**	8.150**	4.259*	4.169*	
誤差	432											

* $p < .05$ ** $p < .01$

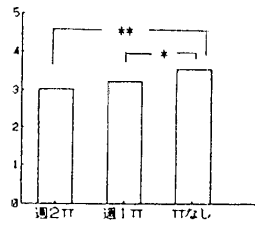


図 1-1 日本人外国人あまり気にしない(項目 7)

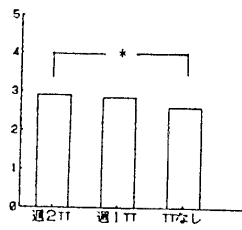


図 1-2 外国人の気持ち行動理解できない(項目 10)

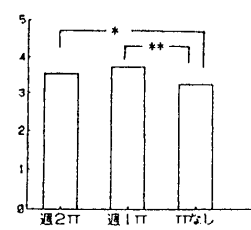


図 1-3 英語の勉強が好きである(項目 15)

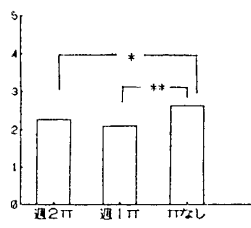


図 1-4 英語の勉強はつまらない(項目 16)

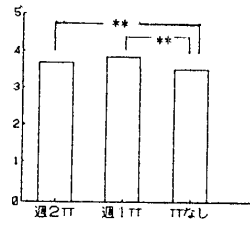


図 1-5 英語の授業は楽しい(項目 18)

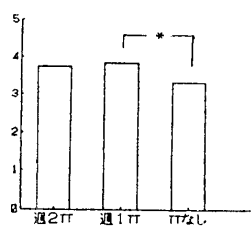


図 1-6 英語の勉強をがんばっている(項目 19)

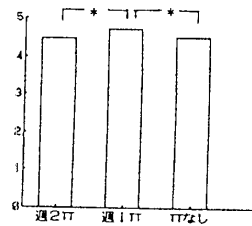


図 1-7 自分の英語が通じるとうれしい(項目 21)

図 1. 外国文化・外国人と英語学習にたいする態度(得点幅 1~5).

* $p < .05$ ** $p < .01$

差: 図 1-6)。

「英語の授業をがんばっている」(項目 19)については、週 1TT 群が週 2TT 群と有意な差はないが 3 群中最も高く、TT なし群との間に 5%水準で有意差が見いだせた(図 1-6)。

「自分の英語が通じるとうれしい」(項目 21)に関しては、週 1TT 群が週 2TT 群と TT なし群と比べ有意に高くその通りであると思っている(それぞれの群との間に 5%水準で有意差あり)(図 1-7)。

2. 英語授業の雰囲気

図 2 に示すように英語の授業の雰囲気について、「明るい—暗い、のびのびできる—きゅうくつな、たのしい—たのしくない、・・・時間が早くすぎる—時間がすぎるのが遅い」の 22 対それぞれについての回答を 5 段階評定によって得た。

AET 授業経験頻度、性ごとに平均、標準偏差を算出し、それに基づく 2 要因分散分析を行っ

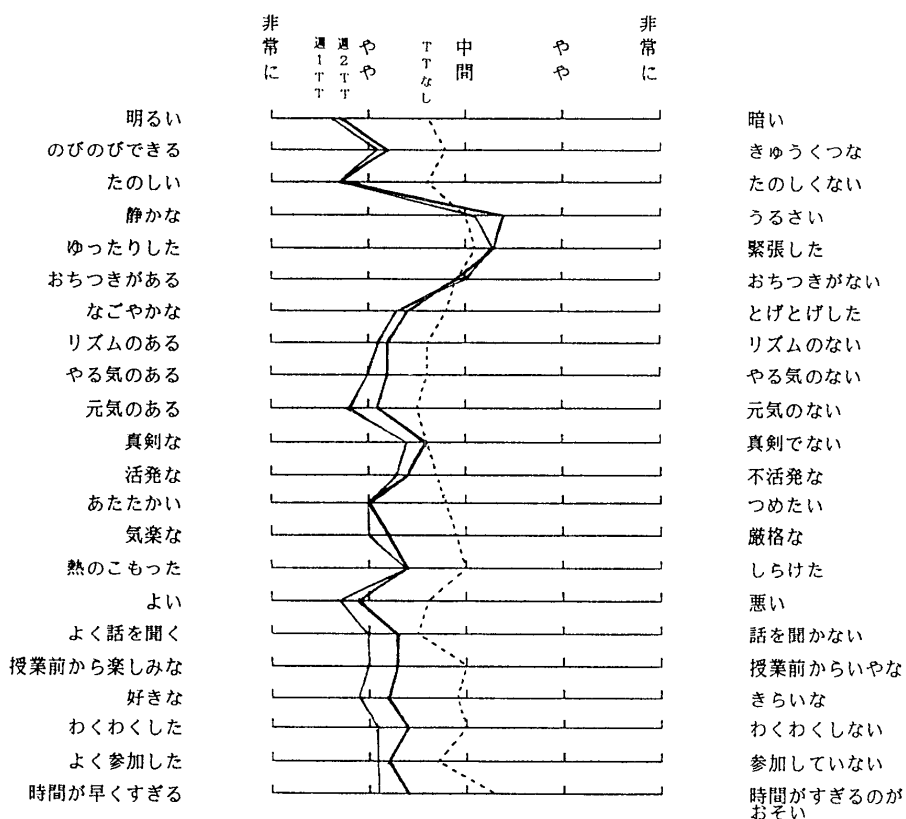


図2. 英語授業の雰囲気の認知。

表2 学級雰囲気の各項目への評定の平均値に基づく2要因分散分析の結果

項目		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
変動源	d f	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
群 A	2	46.628**	19.621**	40.276**	6.387**	0.919	0.782	12.991**	12.167**	10.423**	17.209**	1.475
性 B	1	1.249	0.076	2.522	8.820**	1.045	1.129	2.268	8.167**	1.553	0.403	0.001
A×B	2	0.912	0.385	2.091	9.146**	1.964	0.974	1.092	0.542	3.506*	0.999	0.281
誤差	432											

項目		(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)
変動源	d f	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
群 A	2	6.475**	38.955**	30.976**	15.406**	31.106**	6.929**	35.805**	34.645**	22.720**	12.074**	43.325**
性 B	1	3.508+	1.969	4.010*	0.000	1.064	6.574*	5.034*	6.645*	4.474*	0.734	2.927+
A×B	2	1.410	1.184	1.492	0.339	0.784	0.437	4.483*	4.735**	6.288**	3.845*	2.678+
誤差	432											

+ $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

た。表2に示すように、「ゆったりとした—緊張した，おちつきのある—おちつきのない，真剣な—真剣でない」の項目以外はAET授業経験頻度の主効果が有意であった。

すなわち，AET授業経験のある群の方が，AETのいる英語の授業を，AET未経験群の中学生による日本人教師のみによる英語授業より，「明るい，のびのびできる，楽しい，うるさい，なごやかな，リズムのある，やる気のある，元気のある，活発な，あたたかい，気楽な，熱のこもった，よい，よく話を聞く，授業前から楽しみな，好きな，わくわくした，よく参加した，時間がた

つのが早すぎる」と認知している傾向が見いだせた。

考 察

われわれがまず予想した「AETの存在は外国人理解に役立つ」点は本研究の資料からはむしろ逆のような結果が得られた。具体的な項目でいえば項目6「日本人」とか「外国人」とかあまり気にしない」と項目10「外国の人の気持ちや行動は理解できない」に関する回答において、週2TT群や週1TT群の方がこれらの項目にたいしてわれわれの予想とは逆の傾向がみられたことである。すなわち、接する機会の多い中学生の方が、そうでない中学生よりも「日本人」とか「外国人」とかをより多く気にしており、外国人の気持ちや行動が理解しにくいとする傾向の回答をしていることである。われわれはこの資料を前に戸惑ったが、このことはより深く接すればそれだけより深い次元での理解をしたくなることの現れとも推測されはしないかと考えてみた。その様に解釈すればここでの結果はうなずけるものを含んでいる。ただ、これはあくまで推測の域を出ないものであって、果たしてわれわれのこの推測が妥当であるか否かについては、この点に関してのより深い次元に関わるアプローチがなされるべきである。

次に「AETは英語の学習に対する態度を好意的にする」については、質問項目15「英語の勉強が好きである」、項目10「英語の勉強はつまらない」、項目18「英語の授業は楽しい」、項目19「英語の勉強をがんばっている」、項目21「自分の英語が通じるとうれしい」のすべての項目においてAETによる授業の経験を持っている中学生の方が、その経験皆無の中学生に比べて有意に積極的な方向での回答を示した。このことはわれわれの予想と合致するものであるが、週2回の接触経験と週1回のそれとの間に有意な差がみられなかったことはともかくとして、そのような積極的な姿勢が週1回の群の方がやや高めの傾向がみられた点を今後検討していきたい。接触回数が増えることにより、中学生達自らの英語学習に対する要求水準が高まっていき、結果として自らの評価を辛くして回答しているとも考えられるからである。このことは「AETの存在は英語の授業の雰囲気を明るくなごやかなものとする」というわれわれの3番目の予想とも関わる。結果のところでも述べたとおり、ここでの傾向は、AETによる授業経験の有無により、実に明確にその傾向が現れた。しかし、やはり有意な差はないものの週1TT群が週2TT群よりわれわれの予想の方向の回答がやや高めにみられた。英語学習態度の問題とも絡めて、今後きめ細かく検討していきたい。本研究より、言語学習において、現場におけるAETの存在は学習者になんらかのインパクトを与え、学習への動機づけになるという示唆が得られた。このようなテーマの研究はAETの導入の期間がまだ浅いこともあって、ほんの緒についたばかりである。今後、AET自身に対する調査を含めて、学習効果の学年差を検討するなど、より広く、かつ、きめのこまかい検討を続けていくつもりである。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、非常にご多忙な中を時間をさいて調査にご協力いただいた熊本県総務部国際課畠田経久氏、中学校の教師各位と生徒のみなさんに心からお礼申し上げます。なお、データ分析にあたり本学部助教授篠原弘章氏によるコンピュータ・プログラムを使用させていただきました。記して感謝の意を表します。

付録

これは英語や外国に対するみなさんの気持ちをたずねるものです。成績にはいっさい関係ありません。また秘密は守られますので正直に答えてください。

熊本大学教育学部心理学研究室 鈴木康平

性別 (男 ・ 女)

I 次の項目について、あなたの気持ちに当てはまる数字を○でかこんでください。

	全然 思わ ない	あ まり 思 わ な い	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	ま っ た 思 う
1 外国の人ともっと交流したい	1	2	3	4	5
2 外国の文化や習慣について学ぶことは楽しい	1	2	3	4	5
3 外国人が近づいてくると逃げ出したくなる	1	2	3	4	5
4 世界のできごとに関心がある	1	2	3	4	5
5 日本人なので外国について学ぶ必要はない	1	2	3	4	5
6 外国の人は何となくこわい	1	2	3	4	5
7 「日本人」とか「外国人」とかあまり気にしない	1	2	3	4	5
8 外国人が嫌いである	1	2	3	4	5
9 いつか外国にいきたい	1	2	3	4	5
10 外国の人の気持ちや行動は理解できない	1	2	3	4	5
11 英語をもっと話せるようになりたい	1	2	3	4	5
12 英語が書けなくてもいい	1	2	3	4	5
13 英語を聞いてもっとわかるようになりたい	1	2	3	4	5
14 英語を読んで理解できなくてもよい	1	2	3	4	5
15 英語の勉強が好きである	1	2	3	4	5
16 英語の勉強はつまらない	1	2	3	4	5
17 英語の勉強はむずかしい	1	2	3	4	5
18 英語の授業は楽しい	1	2	3	4	5
19 英語の勉強をがんばっている	1	2	3	4	5
20 英語を勉強することは大切である	1	2	3	4	5
21 自分の英語が通じるとうれしい	1	2	3	4	5

II 外国人の先生がいるときの授業の雰囲気はどのようなですか。あてはまるところに○をつけてください。

	非 常 に	や や	中 間	や や	非 常 に	
明るい	_ _ _ _					暗い
きゆうくつな	_ _ _ _					のびのびできる
たのしい	_ _ _ _					たのしくない
うるさい	_ _ _ _					静かな
緊張した	_ _ _ _					ゆったりした
おちつきがない	_ _ _ _					おちつきがある
なごやかな	_ _ _ _					とげとげした
リズムのある	_ _ _ _					リズムのない
やる気のない	_ _ _ _					やる気のある
元気のない	_ _ _ _					元気のある
真剣でない	_ _ _ _					真剣な
活発な	_ _ _ _					不活発な
あたたかい	_ _ _ _					つめたい
気楽な	_ _ _ _					厳格な
しらけた	_ _ _ _					熱のこもった
よい	_ _ _ _					悪い
よく話を聞く	_ _ _ _					話を聞かない
授業前から楽しみな	_ _ _ _					授業前からいやな
きれいな	_ _ _ _					好きな
わくわくしない	_ _ _ _					わくわくした
よく参加した	_ _ _ _					参加していない
時間が早くすぎる	_ _ _ _					時間がすぎるのが おそい

III 外国人の先生と一緒に授業の回数をどうしてほしいですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- 1 増やしてほしい 2 減らしてほしい 3 なくしてほしい 4 今のままでよい

それはなぜですか。理由をくわしくかいてください。

IV 外国人の先生がいてよかったと思うのはどういうときですか。

文 献

- Brumly, S., & Wada, M. 1990 Team Teaching Longman
- CLAIR 1988 The Japan Exchange and Teaching Program I General Information Handbook
- 熊本県 JET プログラム運営委員会 1993 くまもとの JET プログラム '93
- 萬戸克憲 1988 外国人講師との授業—国際化時代の教育への布石— 大修館書店
- 文部省編 1993 コミュニケーションを目指した英語の指導と評価 大蔵省印刷局
- 篠原弘章 1984a 行動科学の BASIC 第1巻 統計解析 ナカニシヤ出版
- 篠原弘章 1984b 行動科学の BASIC 第2巻 実験計画法 ナカニシヤ出版
- 鈴木康平・田口広明・田口恵子 1993 AET の存在が中学生に及ぼす効果 日本グループ・ダイナミックス学会第41回大会発表論文集 pp. 60-61.
- 竹前文夫 1933 外国人教員の充実 英語教育別冊 21世紀に向けての英語教育 大修館書店 pp. 89-94.
- 和田 稔・荒木秀二・関 正幸 編 1988 外国人講師との協力を生かす英語教育 明治図書
- 和田 稔 1992 TT の現況と将来 英語教育9月増刊号 Vol.41, No. 7, pp. 48-51.